



スモールトークを聞いているところ。現役のグローバルリーダーの考えを間近で聞き、質問や議論ができたことが有意義だったという。

## 北野麻理恵さん (医学部医学科6年)

Marie Kitano

私がサンガレンシンポジウムへの応募を決めたのは、エッセイを書き入賞すれば無料でスイスに行けるからでした。しかし、エッセイを書くにも一苦労で、三日三晩徹夜で書き上げました。現地に行くのと周りは世界の一流の人たちばかり。そんな人たちのマインドセットに触れ、そのヒントを得ただけでも価値はありました。彼らに共通していたのは、人としての魅力的であること。私は信頼を得ることが人としての魅力だと考えているので、スキルだけ

でなく、人を引きつける力があるからこそグローバルリーダーになれるのだと思います。将来は、児童青年期精神科を目指しています。このシンポジウムをきっかけに、世界規模で問題解決にあたる仕事を目指し始めました。自然災害や暴力、国家間紛争やテロなどにより心に傷を負った子どもたちと関わりたいです。これからは医師も二足の草鞋を履く時代。医学分野にとどまらない多方向への好奇心が不可欠だと考えています。

## シンポジウムをきっかけに将来の目標が明確に



スイス・サンガレン大学の学生が主催する「サンガレンシンポジウム」は、世界各国の政財界のリーダーたちと若手が集う国際シンポジウム。本学から参加した2人の学生にシンポジウムでの様子をレポートしてもらった。



エッセイコンテストトップ3に選ばれた学生と。エッセイの作成に対する熱意やプレゼンの練習を見て、レベルの違いを感じたという。

## 鈴木恵美里さん (医学部医学科6年)

Emily Suzuki

私はエッセイ部門の審査を経てサンガレンシンポジウムに参加しました。昨年度のテーマは「Beyond the end of work(現状打破)」でした。私は法律と医学を学んだ経験を生かして、診療情報を活用した市民向け医療データベースについて書きました。私がこのシンポジウムに参加するためのエッセイコンテストに応募したのは、自分の書いたエッセイが選ばれるかどうかを試すためでした。したがって、選ばれたと分かった瞬間はとても

嬉しかったです。シンポジウムでは、「Leaders of Today」と呼ばれる政財界のリーダーの講演を聴いたり、様々なテーマに沿って議論したりする場が設けられています。私たち学生は「Leaders of Tomorrow」と呼ばれ、各自の関心のある分野について意見交換しました。特に刺激を受けたのは、エッセイの評価トップ6による講演です。テーマに対する視点やマーケティング力、魅力的なプレゼンテーションなど参考になることばかりでした。

## トップ6学生の発表に大いに刺激を受けました



### 教員からのコメント

### サンガレンが触媒した化学反応

医療に限定しない、しかも世界の指導的立場や野心的な若者たちが職種や立場を超えて議論するというサンガレンシンポジウムの話を室伏教授から紹介いただいた。本学の海外実習先は拡大されてきたが、このような機会はないので募集をすることに。とはいえ締め切りまで短時間しかなく、本年は誰も行ける学生はいないと思っていた。その中で挑戦し、しかも選ばれた二人を賞賛したい。

参加した二人から個別に話を聞いたが、異なる多様な価値観の持ち主と触れ合ったことが自己と化学反応を起こし、コアとなる自分の価値を改めて見つめていたことに感銘を受けた。

その化学反応は様々なプロジェクトを通じて継続発展して

いる模様だが、本人たちは言うに及ばず次の機会にチャレンジする後輩たちにも拡がり、本学の目指す多様な人材の育成に貢献することは疑いない。



統合教育機構副機構長  
田中雄二郎

サンガレンシンポジウムは、世界の各界リーダーと共に人々が現在抱えている問題をどのように解決してゆくべきか、議論をする場です。失敗を恐れず、国際的な場で自身の考えをしっかりと主張ができたことはお二人の貴重な財産になったかと思えます。今後の活躍を期待します。



スポーツサイエンスセンター長  
室伏広治教授